

私たちを取り巻く“生きづらさ”を解きほぐす  
～これまでの社会の“ふつう”を問い直すことから～

# 府立人研通信

大阪府立学校人権教育研究会

第10号

2025年1月24日発行

## 第3回研究部会のご報告

こんにちは、府立人研事務局です。府立人研通信第10号では、12月13日(金)に柴島高校で行われた「第3回研究部会」のご報告をさせていただきます。教材部会、ケーススタディ部会、進路保障部会の3つの部会に分かれて、講演や実践報告、各校の取り組みの交流をする部会になりました。府立人研は人権教育に取り組むみなさまのサポーターでありたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。



### 教材部会

教材・授業づくりに

必要な観点をみにつけよう

～在日コリアンってどんな存在？

自分のことばで生徒に語ろう～

講演：李明哲さん（神戸大学人文学研究科研究員）

10年間の青年活動を通して実感している、在日コリアンの現在地についてご講演いただいた。在日コリアンに関する諸問題を超えて、“一人ひとりの差異を尊重する社会に必要なものは何か”というテーマについてお話いただいた。

幼いころに先生から言われた「人と“ちがう”ことは、恥ずかしいことじゃない」という言葉から自然とルーツを含めたアイデンティティができたという話が印象的だった。しかし他方では、他者が自身のルーツをどう扱うかによってアイデンティティに大きく差が生まれていくことも忘れてはならず、名前に込められた自分自身の感覚や考えについての話が、今回のテーマに大きく関わることであった。在日コリアンに関する詳細な歴史についても学ぶことができ、後半の討議では、さらに深い内容を学ぶことができた。個人の中にある“差異”の捉え方はさまざまであり、差異そのものを尊重するためには、学びを積み重ねていくことが重要だということを改めて認識できた。

教材の共有では、実際に人権学習で使用された教材をもとに、詳細な進行とその意図や問いかけの工夫等が共有できた。教職員が自分の言葉で語る事が大切であり、そのために多くの理解を深める機会となった。



### ケーススタディ部会

集団づくりって何だろう？

～生徒・教職員の自分語りを通して～

報告：府立松原高等学校

前半は、府立松原高等学校より、集団づくりの取り組みを報告していただいた。生徒の優しいチカラ（人を思いやり、自分を鍛え、未来を描く）を育てるために、自分自身と向き合い、自分の言葉で相手に伝えるクラスミーティングやHR宿舎、課題研究等の実践を紹介していただいた。クラスメ

イトや先輩、後輩、大人との出会いの中で、他者との違いに気づき、お互いを認め合える集団になっていくというエピソードから、報告者が生徒一人ひとりと向き合い、丁寧に対話を重ね、信頼関係を築いてきたのだと感じ取れた。「なぜそう考えたのか」「誰に伝えたいのか」という思いを掘り起こしていくことが、「誰のために何ができるか」という生徒の生き方へ繋がっていくのだというお話だった。安心して語り合える空間というのは、聴いてくれる仲間の存在やありのままの自分を表現しても大丈夫だと感じる聴く側の姿勢であり、それはみんなで作っていくものなのだと学んだ。



後半は、実際に模擬ミーティングを行った。「私ってこんな人」というテーマで、参加者は自分語りの体験をした。最初は不安な表情を浮かべる人もいたが、徐々に緊張がほぐれ、安心して語り合える空間になっていた。思いを伝える際の心の変化を体験することで、聴く側の姿勢の重要性を実感し、疑問点を質問する等、活発なやりとりがなされた部会であった。

## 進路保障部会 本との出会い

～ささやかな日々を綴る～

講演①：久好 圭治さん

(大阪大学大学院理学研究科物理学専攻招聘研究員)

講演②：金井 弘一さん

(星湖舎・私設図書館「闘病記の森」代表)

「本との出会い ～ささやかな日々を綴る～」をテーマに大阪大学大学院理学研究科物理学専攻招聘研究員 久好圭治さんと、星湖舎・私設図書館「闘病

記の森」代表 金井弘一さんにご講演いただいた。

久好さんは今秋放映の NHK ドラマ「宙わたる教室」のモデルとなった定時制高校の科学部を指導してこられた方で、定時制高校での指導経験を長く積んでおられる。ドラマの中の出来事やセリフを叩き台にして、実際の生徒指導や教育のあり方を情熱的に語っていただいた。特に、教員を続けていく中で錆びついてしまいがちな感覚を取り戻させてくれるような講演だった。

金井さんは闘病記を専門に扱う私設図書館を運営されており、たくさんの闘病記に触れてこられた。そのなかで「良い闘病記」等に関する分析がなされ、ただ感情的でなく、読者を意識して記録に残すことの大切さを語っていただいた。また、難病と言われるものの多くの闘病記が記録されていないことに危機感を憶えておられた。

久好さん、金井さん共に、世間的にはいわゆる少数派を対象とした活動をされていたが、お二方の感じ方や考え方を深く知ることによって、それらは万人に通じることだということに思い至った。ユニバーサルデザインにも通じる考えを新たにできる時間だった。



## 第44回研究集会の御案内

児童・生徒たちの生きる現実(いま)をとらえ  
直す学校・社会の創造

～つながりを未来へのチカラに～

1月31日(金) 府立市岡高等学校にて開催

※詳しくは府立人研 HP をご覧ください

## 府立人研 大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内

(通送便は「府立人研」とお書きください。)

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通) (お電話の場合は、火曜日をお願いします。)

E-Mail furitsujinken@nifty.com (お問い合わせは、なるべくメールをご利用ください。)



↑府立人研 HP も  
チェックしてください

\*「府立人研だより」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。\*